

## 「唐招提寺からESDを学ぶ」

奈良教育大学持続発展・文化遺産教育研究センター 中澤 静男

### 1. 単元名 唐招提寺からESDを学ぶ

### 2. 単元の概要

本単元は、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成要素のひとつである唐招提寺を通して、持続可能な地域社会の実現の基盤となる地域を大切に思う心を養うと共に、持続可能な社会づくりの構成概念を身に付け、その能力や態度を養うものである。

唐招提寺は、759年に唐から招いた高僧鑑真によって開かれた。「招提」には、四方から僧が集まる道場といった意味があり、僧が守るべき規則である戒律を学ぶために建立されたことが、名前からもわかる。奈良時代に正しい仏教を日本に伝えてもらうことを目的に、興福寺の栄叡と普照という二人の僧が遣唐使船で唐に派遣された。正式な僧になるためには戒を授かる必要がある。授戒には10人の資格を持つ正式な僧が必要だが、当時の日本には10人の正式な僧がいなかった。そこで、授戒できる高僧を日本に招聘しなければならなかったのである。鑑真は栄叡と普照の願いを受け、5度の失敗を乗り越えて渡来し、聖武天皇などに戒を授けた。

戒律を授ける儀式を行う場所が戒壇であり、唐招提寺には三重の石段で造られた戒壇がある。また唐招提寺の講堂は、平城宮にあった東朝集殿を移して寺院用に改築したもので、平城宮の建物として唯一残る貴重な建築物である。金堂は平成になって大修理がほどこされ、奈良時代から屋根の上にあった鴟尾（しび）がおろされ、現在は新宝蔵で間近に目にすることができる。

本単元では、鑑真や唐招提寺の仏像、祭事について見学や調査活動を通して学ぶことで、持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的としている。

### 3. ESDの視点の明確化

#### 【持続可能な社会づくりの構成概念】

本単元では、持続可能な社会づくりの構成概念のなかで次の3つを学ぶことができる。

#### 構成概念Ⅰ 多様性

唐招提寺の釈迦如来立像は鎌倉時代につくられたものである。その胎内から多くの文書が発見されている。そのひとつに「必ず必ず、これらの衆生より始めて、一切衆生、皆々、仏となさせ給え」とあり、多くの人名が記載されているが、そこにはクモ、ノミ、カ、シラミ、ムカダ、ミミズ、カエル、トンボなどの名前も交じっている。また、5月19日にはうちわまきという行事が行われるが、鎌倉時代に唐招提寺を復興した覚盛上人が、蚊も殺さなかったということ寺伝が、この行事の始まりである。この二つを通して、人だけではない、生き物すべてについて考える態度を養うことができる。

#### 構成概念Ⅱ 相互性

唐招提寺の開祖である鑑真は唐僧である。鑑真をテーマとした学習を展開することで、国際交流の重要性を学ぶことができる。

## 構成概念VI 責任性

鑑真の言葉「仏教のためなり、何ぞ身命を惜しむことあらんや。諸人行かずんば我即ち行くのみ」や、5度の失敗を越えて渡日した鑑真の行動から、責任性や主体性について学ぶことができる。

### 4. 留意事項

#### ① 教材のつながり

本単元では、2年生の生活科の町たんけんや3・4年生の社会科の地域学習、総合的な学習の時間において学んだ地域の文化遺産の学習を踏まえ、そこで身に付けた調べ方やまとめ方、発信の仕方を応用する。また6年生の社会科の奈良時代の遣唐使や鎌倉時代の文化とも関連付けながら取り組むことができる。また道徳の「社会的役割と責任」とも関連付けて取り組むことができる。

#### ② 人のつながり

唐招提寺の方へのインタビューや奈良市文化財課、奈良国立博物館、奈良文化財研究所等の協力を得ながら学習を進める。さらに奈良観光ボランティアガイドの会の方等、文化財の価値を発信されている方と直接出会い、文化遺産の保護や発信に関する気持ちを聞き取る。

#### ③ 能力・態度のつながり

人間も含めたすべての生き物のをことを視野に入れた行動の仕方や、一度決めたことはあきらめずに粘り強く取り組むことなどを、日常生活の場面においてどのようにすればよいか、自己の生活を振り返りながら考えさせたい。

### 5. ESDの視点を生かした授業の実践

#### (1) 単元の目標（重視する能力・態度）

##### 態度・能力① 批判的に考える力

唐招提寺に関する多種多様な情報から必要な情報を取捨選択し、よりよい課題解決を主体的に進め、考えを深めることができる。

##### 態度・能力③ 多面的、総合的に考える力

唐招提寺を通して文化遺産の保護、伝統の伝承について、必要とされる環境や社会など多面的、総合的に考える力を養うことができる。

##### 態度・能力④ コミュニケーションを行う力

グループでの調査活動やインタビューや聞き取り調査、それをもとにした考察などの学習を通して積極的にコミュニケーションしようとする力を養うことができる。

##### 態度・能力⑥ つながりを尊重する態度

鑑真の行動、初夏如来立像に込められた願いから、自己と社会、自己と自然とのつながりについて関心を持ち、それらを尊重しようとする態度を養うことができる。

##### 態度・能力⑦ 進んで参加する態度

鑑真の行動から、持続可能な社会づくりのための自分の役割を自覚し、自主的・主体的に、また粘り強く取り組む態度を養うことができる。

(2) 評価規準

批判的に考える力	多面的、総合的に考える力	コミュニケーションを行う力	つながりを尊重する態度	進んで参加する態度
①鑑真の渡日の意志を考える。 ②リーフレットの内容について、代替的にアイデアを出す。	①鑑真や唐招提寺の調査結果を比較し、共通点を見出す。	①インタビューや聞き取り調査に積極的に取り組む。	①調査結果をもとに、自己の生き方と環境との関連を考える。	①地域のよさを調べ、進んで発信する。

6. 単元展開の概要 (全 16 時間)

主な学習活動	◇学習への支援 ◆評価
1. 鑑真に関するDVDを視聴する。(1)  2. 学習課題をつくる。(1)	◇ NHK for School 第 36 回「鑑真～海を渡ってきた中国の僧」を視聴させる。  ◇ 奈良時代の様子について、社会科とも関連付けて解説する。 ◆ 鑑真の渡日の意志を考える。(批判①)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             なぜ、鑑真は何度も失敗してもあきらめなかったんだろう。           </div>	
3. 鑑真や唐招提寺について調べまとめる。(6) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 唐招提寺の見学</li> <li>・ 図書館を利用する。</li> <li>・ 文化施設を利用する。</li> </ul>	◇ なら観光ボランティアガイドの会と連携し、少人数グループで唐招提寺を見学する。 ◇ メモをとったり、インタビューしたり、多面的に取材する方法を指導する。 ◇ 図書館等の利用の仕方を指導する。 ◆ 主体的に調査できる。(コミュニケーション①)
4. 調べたことの交流(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑真の行動について</li> <li>・ 釈迦如来立像の胎内文書について</li> <li>・ うちわまきについて</li> </ul>	◇ 共通点を見つけるよう指示する。 ◇ 自分の生き方と比べて考えさせる。 ◆ 調査結果を比較し、共通点を見出す。 (多面・総合①)
5. 鑑真・唐招提寺リーフレットの作成(4) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESDの視点から、鑑真の行動や唐招提寺から学んだことをまとめる。</li> </ul>	◇ これからの自己の生き方や生活スタイルについて考えたことを記述させる。 ◆ リーフレットの改善に取り組む。(批判②) ◆ 自己と環境との関わりを尊重する。(つながり)

<p>6. 地域の文化遺産を調査し、個人でリーフレットを作成し、学級でリーフレット交換会をするほか、地域でも配布する。(1) (課外)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 保護者と一緒に取り組めるよう、保護者に協力を要請する。</li><li>◇ 作成できたリーフレットを評価し、さらなる行動化への意欲の向上を図る。</li><li>◆ 自主的に粘り強く取組み、発信する。(参加)</li></ul>
---	--